

み

か

い

安住院便り (第23号)

平成21年8月1日発行
〒703-8236
岡山市中区国富3丁目1-29
住職 生駒琢一
TEL(086)272-2320 FAX(086)273-9327

操山の古墳

古墳とは、古代の権力者やその親族の墓であり、石棺の上を丘のように土で覆つてあります。一般的に四世紀～七世紀に造られたもので、年代により形状も異なり、数多くのものが全国で知られています。岡山では吉備の国と言われた頃、多くの古墳が造られ、有名なものもあります。

古墳とは、古代の権力者やその親族の墓であり、石棺の上を丘のように土で覆つてあります。一般的に四世紀～七世紀に造られたもので、年代により形状も異なり、数多くのものが全国で知られています。岡山では吉備の国と言われた頃、多くの古墳が造られ、有名なものもあります。



この操山の山中にも大小合わせて百基以上の古墳が確認されており、操山古墳群と名付けています。操山古墳群は、現在の地図とは異なり、操山の西側麓を旭川が流れ、山の南側は海であり、網浜や湊という地名がその様子を示しています。現地図の状態は、江戸時代の治水事業や新田開発により生まれたものです。

操山周辺は、現在の地図とは異なり、操山の西側麓を旭川が流れ、山の南側は海であり、網浜や湊という地名がその様子を示しています。現地図の状態は、江戸時代の治水事業や新田開発により生まれたものです。

操山古墳群の中の一つが、現在修復中ですが、昔遊んだ経験を持つ方も多いはずです。

この安住院塔の下古墳は石室もしつかりして、南東に向けて開口しており、かなり大きな円墳墓であつたと思われます。その丘の一部を削り平らにして、現在の多宝塔を建立したものと推測されます。操山瓶井の谷に、安住院を中心とした伽藍が創建されたのが八世紀末ですから、その頃には古墳もその姿を保っていたことでしょう。それから約千年の後に後楽園の築庭に合わせて、多宝塔建立の基が、その古墳の地に築かれたのです。現在一般の方が、墓地に供養墓として、五輪塔を立てる意味合いと、同じような考えもあつたのかも知れません。

推測だけで何も文献は残つてませんが、多宝塔が立つてゐる、この操山の古代の風景を想像することは、とても面白い気がします。

太古より、日本人の心の奥底に、先祖供養と墓への崇拜心は、ずっと培われてきてゐるものと確信しています。そこに新しい仏教が伝来し、日本人の気持ちを表現する手段として、仏教が受け入れられたのです。日本古代の歴史を思い、この操山の昔を考えることは、景観の維持と言うだけでなく、様々な文化を継承することにもつながるのではないかでしょうか。

多宝塔修復工事公開



六月六日・七日の両日、現在修復中の安住院多宝塔工事状況公開・第三回目が行われました。

本年度は、実際の瓦葺きの作業を見学することも出来、最終段階に入つた修復状況を確認して頂けました。上層までの屋根の全面葺替えは創建以来です。更に数百年の時の経過にも耐えるようにとの、職人さん達の気持ちが、伝わってきます。

長泉寺記念大法会



同じ真言宗結衆寺院の岡山市南方の長泉寺にて、開山五百周年記念大法会が、五月に執り行われました。

咒立曼荼羅供養法会の厳修とともに、インド仏教徒指導者、佐々井秀嶺師の記念法話もあり、

盛況でした。
岡山市仏教会主催で、今年も例年通り、八月十六日六時半から、西川の緑道公園にて、灯籠流しを開催致します。
ご先祖様の供養のため、是非お詣りして、灯籠流しにご参加下さい。

灯籠流し

高野山参拝・中国観音⑥

今年の四月二十二日～三日、中国観音靈場参拝第六回目として、高野山への御礼参りを行いました。

例年に比べると寒く、少し震える天候でしたが、高野山で、お大師さまゆかりの地、天野神社と立里荒神にも足を伸ばし、霊山全体の雰囲気を味わうことが出来ました。

帰りには、歴史的にも伽藍としても由緒深い、古刹の河内長野の金剛寺にお参りしました。女人高野の一つであり、南北朝時代の南朝殿が置かれていたお寺で、国宝の本堂・御本尊も素晴らしいものでした。

高野山を中心とした地方は弘法大師の聖地であり、多くの神社仏閣があるとともに、独特の安らぎを感じられる空間なのです。

次回より瀬戸内觀音靈場を巡拝の予定で、十月二十三日（金）日帰りの予定です。

